

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 17号

2012/9/24 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、12~13年度の世界カカオ豆市場、供給不足に＝西アフリカの降雨不足で－I C C O(9/21)

国際ココア機関（I C C O）の統計担当者は21日、2012～13年度の世界のカカオ豆市場が供給不足に陥るとの見方を示した。西アフリカの降雨不足で、供給量が減少するとみられている。

同担当者は「需要面では、特に先進国の消費が不振だが、新興市場では需要が増えている。このため12～13年度は、全体的に需要は伸びると予想している」と述べた。I C C Oは、11～12年度のカカオ豆市場について1万9000トンの供給不足を予想している。

弊社の視点：主要な産地である、コートジボワール、ガーナの2012-2013年シーズンの収穫数量がいずれも2011-2012シーズンに比べ減少するという予測（先日ガーナは80万トンと予測を発表した）が大きく起因して2011-2012の1万9,000トン以上に更なる供給不足になると見込まれていることから、実需面では2012-2013年は高値の展開が推測される。一方でコートジボワールの天候については、今週、大きく改善があったという明るい情報も入ってきており、世界最大の生産国のコートジの収穫数量の上下は、ココア市場全体にも影響を与える為、今後も注視が必要である。

2、コートジボワール、カカオ豆圧砕業者向けの税優遇措置を10月廃止＝C C C関係者

コートジボワールのコーヒー・ココア評議会（C C C）の関係者は22日、20年にわたって続けてきた同国の国内カカオ豆圧砕業者向けの税優遇措置を10月1日付で廃止することがC C C内で通知されたと明らかにした。

カーギル、バリーカレボー、セモア、アーチャー・ダニエルズ・ミッドランド（ADM）は、取り扱うカカオ豆の一部をコートジボワール国内で圧砕しており、税優遇措置の恩恵を受けている。これに対し、同国外で圧砕作業を行っている輸出業者が、国内圧砕業者への税優遇措置をやめるよう求めていた。関係筋は、政府の決定がC C Cの責任者によって通知されたと述べた。

弊社の視点：カカオ豆の場合、ガーナ産とコートジ産のプレミアムの差は50ポンド前後/トンである事が多いが、加工品であるカカオマス、ココアバター、ココアパウダーについてはそれ以上の値差がつくことも見受けられる為、この税優遇措置の廃止が本当に実行されるのであれば、コートジ国内のカカオ豆磨砕工場の商品価格にどのように影響を与えるのが注目である。

2、2013年のインドネシア産カカオ豆収穫数量は栽培面積減少しても上昇と予測

インドネシア・ココア協会代表のAskindo氏は21日、世界第3位国カカオ豆生産高予想はカカオ栽培面積が減少するものの、単収が上昇することで、2012年より増産出来ると見解を述べた。同協会は9月半ばに2012年産の収穫数量については、43万5000～45万トンとし、従来予想の47万5000トンから下方修正していたが、2013年については上昇を見込めると考えている。(尚、2011年産は43万5,000トンであった)

現在、インドネシアでは、パームとココアの間で生産地の奪い合いが起きており、パームも今後も引き続き世界的な需要増により輸出拡大が見込めることから、カカオの栽培面積は減少すると考えられている。一方で、現在インドネシアのココア産業が注力している面積当たりの収穫数量を伸ばすプログラムの結果が来年からは期待できる為、収穫数量全体は上昇させることが可能だとしている。(インドネシアは現在、世界最大のパーム生産国)

また、カカオ豆輸出高は、12年は国内の磨砕数量の拡大で11年の21万トンから29%減少し、15万トンとなる見通し。インドネシアは、ココア豆などコモディティ関係の原料輸出に関税を設ける一方で、国内での同原料の加工工場への投資については免税措置等インセンティブを与えることで、国内への投資を呼び込んでいる。同協会の幹部は『国内の磨砕数量拡大への活動は非常に成功しており、国内の磨砕数量は11年の25万トンから12年は35万トンへ大きく増加する』『09年の時は僅か、13万トンだった』と述べている。

そして、同国内のカカオ豆磨砕事業は今後の計画上では、現在の磨砕可能数量合計の39万5,000トンに対して、更に13万6,000トンの追加がされる予定になっているという。

同協会の幹部は『来年以降も、インドネシアでは、カカオ豆の輸出が減少していき、国内での磨砕数量が増加していく現在の傾向が継続してくだらう、また国内のチョコレート関連商品の需要の高まりもあるが、我々はココアバターの輸出においては世界の主要国であることに変わりはないだろう』と語っている。

同国は、北米、欧州市場向けの主要なココアバター輸出国である。

3、主要な磨砕加工業者、カカオ豆を売り戻す=チョコレート需要の鈍化が背景(9/20)

欧州のトレーダーらが20日明らかにしたところによると、チョコレート需要の鈍化とココア加工の利幅低迷を受け、主要なカカオ豆磨砕加工業者の間でカカオ豆を売り戻す動きが進んでいる。

米アーチャー・ダニエルズ・ミッドランド(ADM)と、シンガポールのペトラ・フーズの子会社デルファイ・ココアが市場にカカオ豆を売り戻しているという。ADMの広報担当は「ADMはカカオ豆の購入と販売を含む通常通りの業務を進めている」と述べた。デルファイ・ココアのコメントは得られていない。

『これで、皆がやはり第3四半期の欧州の磨砕数量も低いだらうと考えているのは確かだと思うよ』と欧州のトレーダーは言う。

European Cocoa Association (ECA)が7月に発表した第2四半期の欧州のカカオ豆磨砕数量は前年対比

で17.8%減という大幅な落ち込みを見せた。第3四半期の磨砕数量は10月の2週目に発表されるが、更なる落ち込みが予測されている。

『市場は、次の磨砕数量は前年対比15%~18%マイナスの落ち込み幅だろうと考えているし、大胆な予測をしている人はマイナス20%まで落ち込むだろうと言っている』

一方、それだけ鈍化した需要を背景にしてもカカオ豆の価格は、世界第1位のカカオ生産国であるコートジボアールのカカオ業界の再編と新物の作柄状況に対する不透明感が影響し、数か月ぶりの高値水準付近で留まっている。

予測よりもかなり低い需要を受けて、主要な磨砕加工業者は当分先にカカオ豆の必要になった時の購入価格が上昇してしまうリスクがありながらも現時点の余剰分のカカオ豆を転売するか、市場に売り戻している。

『もし年間分のカカオ豆の購買契約をしていたとしたら、その工場が生産調整性してしまえば、その工場は1年以上分の原料を抱えていることになってしまう』欧州のトレーダーは説明する。

カカオ磨砕業者やチョコレート製造メーカーは、もし、コートジボアールのカカオ産業の構造改革関連で今年の年末頃に輸出の遅れが出たら、一時的にロンドン先物市場での供給が不足に直面する可能性があるとして、カカオ豆の備蓄を進めていた。

4、オーガニックカカオ、世界の生産数量の1%へ成長(9/21)

オーガニックカカオ生産者のグループによると、現在世界のカカオ豆生産数量の1%もしくは大凡30,000トンのカカオ豆がオーガニック認証済みのものであると報告された。

『この数字は、9年前に比べて2倍の数字であり、今後も継続して増加していくと予測される』と世界各国のオーガニック生産者がメンバーとなっているドイツのNaturland協会は述べている。

『来年も引き続き増加していくと予測できるが、オーガニック・ココアだけの統計を収集するのは非常に難しい作業だ』

生産者は通常のカカオと比較してオーガニックカカオに対してはトン当たり\$200~\$400のプレミアムを受け取る事が出来る為、生産の為の手間とコストが掛かるがそれでも尚、魅力的であるようだ。

『私達の団体へは、オーガニックカカオ農園への変更に興味を示すエクアドル、ペルー、ドミニカ共和国、カメルーンなどのカカオ生産国の生産者から問合せが多く、逆にカカオの主要な生産国である西アフリカのコートジボアール、ガーナは政府のカカオ生産に対する関与が大きい分、個別の問い合わせは少ない』

ドイツの環境分野への投資会社であるForest Finance社は、ペルーとパナマのオーガニックカカオの生産量拡大の為の投資を行った。この会社は、木などがなくなってしまった中南米の土地にもう一度カカオ木とその他の様々な木や食物を植えて、高品質なカカオ豆を生産し、農家にも投資家にも利がある状況を目指している。

最初のプロジェクトは、パナマの160ヘクタールの農地を巻きこんで2013年から輸出を開始する。もう一つのペルーのプロジェクトはまず60ヘクタールから開始し、大凡4年間で最初の収穫が開始されるが、それと同時に、数百ヘクタールまで栽培面積は拡大出来る。

また、環境にやさしい投資を探しているドイツ企業の中には、今回紹介したようなプロジェクトへの投資機会を求めている企業もある。

5、9月16日までのブラジルのカカオ豆着荷量、前年比32%増＝バイア商業協会(9/20)

ブラジル・バイア州のバイア商業協会が20日までに発表した統計によると、5月1日～9月16日の同国のカカオ豆着荷量（輸入含む）は221万9571袋（1袋＝60キロ）で、前年同期比32%増加した。ブラジルは世界6位のカカオ豆生産国。てんぐ巣病で深刻な被害を受ける以前の1990年代前半は、世界2位だった。

2011～12年集荷数量 5月1日～9月16日

	先週	合計(60kg袋)	合計(トン)
Bahia	76,264	1,485,679	89,140トン
Other states	20,412	632,407	37,944トン
Other nations	0	101,485	6,089トン
Total	96,676	2,219,571	133,174トン

2010-11年集荷数量 5月1日～9月16日

	週間	合計(60kg袋)	合計(トン)
Bahia	37,985	1,181,793	70,907トン
Other states	22,667	416,073	24,964トン
Other nations	0	83,973	5,038トン
Total	60,652	1,681,839	100,910トン

6、テーマ特集：フェアトレード（第3回）



前回よりスタートした特集記事“フェアトレード”ですが、3回目の今回はそのフェアトレードの基準となる『国』と『対象商品』について調べてみたいと思います。フェアトレードの基準はその認証を行う機関にとって其々異なりますが、左記の国際フェアトレードマークの場合を例にして、その基準を確認してみたいと思います。また、現在の日本のフェアトレード市場についても調査したいと思います。

1) フェアトレードインターナショナルが認定しているフェアトレード対象国

AFRICA				
Eastern Africa	Middle Africa	Northern Africa	Southern Africa	Western Africa
Burundi	Angola	Algeria	Botswana	Benin
Comoros	Cameroon	Egypt	Lesotho	Burkina Faso
Djibouti	Central African	Libyan Arab	Namibia	Cape Verde

Eritrea	Republic	Jamahiriya	South Africa	Cote d'Ivoire
Ethiopia	Chad	Morocco	Swaziland	Gambia
Kenya	Congo	Sudan		Ghana
Madagascar	Congo,	Tunisia		Guinea
Malawi	Democratic			Guinea-Bissau
Mauritius	Republic			Liberia
Mayotte	Equatorial Guinea			Mali
Mozambique	Gabon			Mauritania
Rwanda	Sao Tome and			Niger
Seychelles	Principe			Nigeria
Somalia				Saint Helena
Uganda				Senegal
United Republic of				Sierra Leone
Tanzania				Togo
Zambia				
Zimbabwe				

AMERICAS (Latin America and the Caribbean)

<i>Caribbean</i>	<i>Central America</i>	<i>South America</i>
Anguilla	Belize	Argentina
Antigua and Barbuda	Costa Rica	Bolivia
Barbados	El Salvador	Brazil
Cuba	Guatemala	Chile
Dominica	Honduras	Colombia
Dominican Republic	Mexico	Ecuador
Grenada	Nicaragua	Guyana
Haiti	Panama	Paraguay
Jamaica		Peru
Montserrat		Suriname
Saint Lucia		Uruguay
Saint Kitts and Nevis		Venezuela
Saint Vincent and the		(Bolivarian Republic of)
Grenadines		
Trinidad and Tobago		
Turks and Caicos Islands		

ASIA				
Central Asia	Eastern Asia	Southern Asia	South-Eastern Asia	Western Asia
Kazakhstan	China*	Afghanistan	Cambodia	Armenia
Kyrgyzstan	Democratic	Bangladesh	Indonesia	Azerbaijan
Tajikistan	People's	Bhutan	Lao People's	Georgia
Turkmenistan	Republic of Korea	India	Democratic	Iraq
Uzbekistan	Mongolia	Iran, Islamic	Republic	Jordan
		Republic	Malaysia	Lebanon
		of	Myanmar	Occupied
		Maldives	Philippines	Palestinian
		Nepal	Thailand	Territory
		Pakistan	Timor-Leste	Oman
		Sri Lanka	Viet Nam	Saudi Arabia
				Syrian Arab
				Republic
				Yemen

OCEANIA		
Melanesia	Micronesia	Polynesia
Fiji	Kiribati	Cook Islands
Papua New Guinea	Marshall Islands	Niue
Solomon Islands	Micronesia, Federated States of	Samoa
Vanuatu	Nauru	Tonga
	Palau	Tuvalu
		Tokelau
		Wallis and Futuna Islands

2) フェアトレードインターナショナルが認定しているフェアトレード対象製品

食品

産品名	分類される代表的な製品
コーヒー	焙煎豆
生鮮果物	バナナ、りんご、アボカド、ココナッツ、レモン、オレンジ、ワイングレープ
カカオ	チョコレート
スパイス・ハーブ	スパイス： バニラ、クミン、コショウ、シヨウガ、シナモンなど ハーブティー： ルイボス、ハイビスカス、カモミールなど
蜂蜜	蜂蜜

ナッツ	カシューナッツ、胡桃、アーモンド、マカデミアンナッツ
オイルシード・油性果実	ごま、オリーブ、大豆など
加工果物・野菜	ドライフルーツ、フルーツジュース、ドライ野菜
サトウキビ糖	砂糖
茶	紅茶、緑茶など（※レイボスティーは、ハーブに分類）
野菜（豆類・じゃがいも等を含む）	ピーマン、メロン、ジャガイモ、ひよこ豆、レンズ豆など
穀類	米、キヌアなど

食品以外

産品名	分類される代表的な製品
繊維	コットン
花	バラ、カーネーションなど
スポーツボール	サッカーボール、フットサルボールなど
金	金
木材	家具、床材など

3) 日本のフェアトレード認証製品市場について（FLJのHPより）

1993年にフェアトレード・ラベル運動が日本に導入されてから19年になります。2002年後半ごろから、身近なコーヒESHOPやスーパーなどでもフェアトレード認証製品が販売されるようになり、2008年まで毎年30～50%の成長率で拡大してきました。

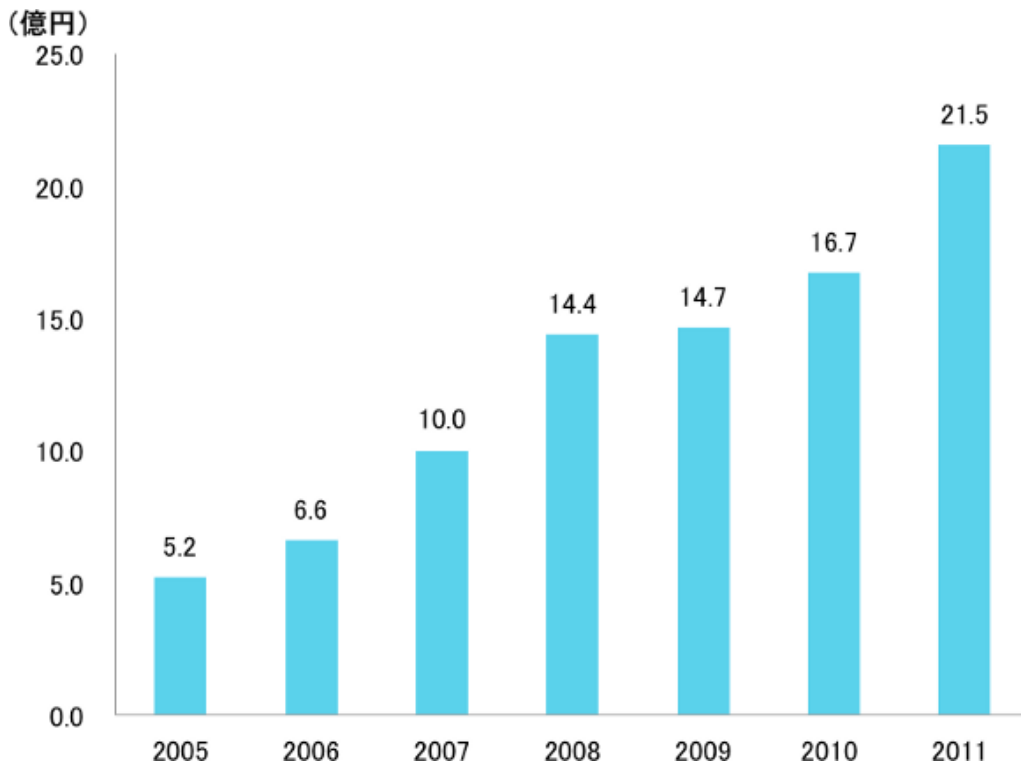
2009年には、フェアトレードとは直接関係のないエチオピア産モカコーヒーの残留農薬の問題が影響し、フェアトレード市場の拡大が一旦停滞しましたが、2010年にはコットン製品やチョコレート、バナナなどまた新しい産品カテゴリーに商品が広がったことにより、また2011年にはフェアトレードの主力産品である認証コーヒーの販売量が大きく伸びたことにより、その後は順調に成長しています。

2011年フェアトレード認証製品市場規模（推定小売市場規模）は前年比29%増の21億5千万円となりました。フェアトレードに参加する企業・団体数も年々増加傾向にあり、日本国内では2012年7月末時点で137組織に広がっています。（市場規模の推移については、下記参照）

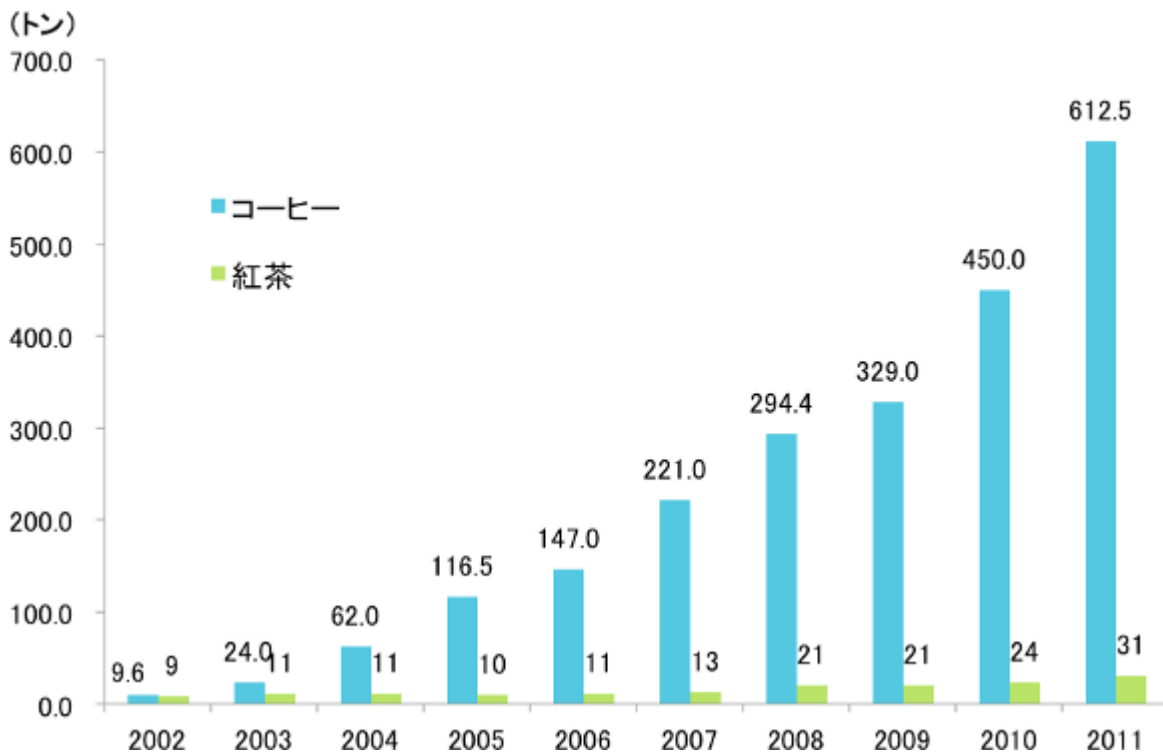
*チョコレートフェアトレード製品についての正式な統計はありませんが、国産フェアトレードチョコレートについては、とても少ないのが現状です。その一因はコーヒーや紅茶と異なり加工品である為、複雑な製造プロセスを経る分フェアトレードの認証も複雑になりがちであると思われることです。

この特集では、最後に最新のチョコレートの国内での製造における認証基準について調査致します。

【日本国内フェアトレード認証製品市場の推移：（単位：億円）】



フェアトレード認証コーヒー、紅茶製品 国内販売量推移（単位：トン）



*フェアトレード関連情報はフェアトレードラベル・ジャパンのHPを参照しています。

*ニュースソースは特記がない場合以外は、ロイター通信社の情報を加工し提供しています。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp